

〔後水尾院當時年中行事正月〕朔日、四方拜略。御ゆどの終りて後、上臈亦はかまをきて御鬢をかき、御かうぶりを奉る、すいえいかうひねりの御かけ、下の大口ばかりをめす、御そくたいあるべき爲なり、略。中、清涼殿の北の方にて御そく帶あり、裝束司二人参りてめさす、近習の人可然が御前にさぶらふ、

〔嘉永年中行事〕正月朔日、四方拜略。中、次に黄櫨の御袍をめさします、高倉山科相替りて、御衣文つかうまつる、

〔親長卿記〕文明十二年正月一日、寅刻許、参内冠衣、召具元長、四方拜奉行之故也。略。中、著御屏風之内、後元長取御草鞋退入、持参御笏、先々牙御笏也、雖然先年紛失了、今度被申關白并室町殿之處、象牙無御座云々、仍堀河院木御笏被用之由、禪閣兼藤原被申、殊木御笏在御物之内、仍被用之、

〔宗建卿記〕享保十八年正月一日、四方拜、御手水自今年被用貫簧、今日主上御檜扇蘇芳長飾初被用之、近世以紅糸卷御扇、恐幼主例歟、於御直衣之時者、尋常御檜扇也、年來御不審、仍自今年被用、件御扇、牙御笏被入、蒔繪篋、蓋敷錦袋、件御笏、去年自關白被獻者也、抑牙御笏事、著御禮服之外、近世不被用之、文明十二年雖可被用之、依紛失無其儀、且其頃關白并室町等被申、無象牙之由、仍被用木御笏以來、至今年不被用牙之處、今年御再興珍重々々、且被入御疊紙、是又近世無之、

〔法性寺關白記〕保安四年正月一日、拂曉追難、以著束帶、持笏、帶劔如例、於東對南庭拜天地四方略。中、勾當源盛定著衣冠、行事隨身二人著褐衣、祇候、

〔玉海〕元暦二年正月一日乙酉、早旦四方拜須寅刻有此事、而自然及卯刻、如例、但依辭大臣、不帶劔也、建久八年正月一日乙亥、寅刻拜天地四方、用宿袍、不著束帶、

〔玉藥〕安貞二年正月一日乙亥、卯刻四方拜如恒、衣冠右府藤原、同之、但束帶蒔繪劔、隨身一人著褐伺候、